

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会（第25期・第5回）
議事要旨

1 日 時 2021年7月20日(火) 14:00～17:00

2 方 法 オンライン開催（Zoom）

3 出 席

委員：小林傳司、馬奈木俊介、狩野光伸、古谷研、沖大幹、小池俊雄、三枝信子、春山成子、植松光夫、江守正多、大手信人、春日文子、蟹江憲史、香坂玲、近藤昭彦、近藤康久、杉原薫、竹中千里、谷口真人、中村尚、氷見山幸夫、福士謙介、村山泰啓、渡辺知保、安成哲三

参考人：森田敦郎

オブザーバ：石井敦、朝山慎一郎

事務局：小山

欠 席：高村ゆかり

4 議題等

- 1) 前回議事要旨の確認と前回議論の振り返り
- 2) 話題提供1「学術と社会と超学際」小林傳司(大阪大学)
- 3) 話題提供2「人新世における持続可能性」森田敦郎(大阪大学)
- 4) ブレイクアウトセッション
- 5) 総合討論（今期具体的アクション3つ）
- 6) 学術フォーラム企画について
- 7) その他

5 配布資料

資料1：第3回議事要旨・第4回メール審議結果

資料2：（非公開）第3回グループ討論報告

資料3：（非公開）変容する科学技術と社会 ブダペスト宣言から20年

資料4：（非公開）気候変動・人新世と人文社会科学の現状

6 議事内容

1) 議題の追加

沖委員長より、安成委員から事前にメールで議題追加の提案があったこと、これを受けてFE日本委員会からの報告に関する議事を「前回議事要旨の確認と前回議論の振り返り」の後で行うことが説明され、承認された。

2) 前回議事要旨の確認と前回議論の振り返り

三枝委員より、資料1に基づき第3回議事要旨と第4回メール審議結果の報告が行われた。また、資料2に基づき前回のグループ討論の概要が説明された。修正の指摘はなかった。

3) FE 日本委員会ならびに FE 国際事務局からの報告

安成委員より FE 日本委員会が本委員会の直前に開催されたことが報告され、春日委員より国際動向に関して以下の背景説明が行われた。

- ・ 7 月に開催された現評議会において（高村副会長出席）、日本からの提案を含む全 8 つの新 Global Secretariat Hubs が承認された。
- ・ FE は全体方針を審議するための第 1 回総会（Assembly）を 9 月末に開催することになった。
- ・ 実際の運営は評議会（Governing Council）において議論される。
- ・ 各国の国内委員会（National Committee）から総会へ 2 名の参加が求められる。
- ・ 国際事務局各 Global Secretariat Hub の Board あるいは Funders から総会へ 2 名が出席する。
- ・ この他に Global Research Project や KAN から代表者各 2 名が総会に出席する。
- ・ 今回の第 1 回総会では、新評議会メンバーを選出することが最重要の役割である。

続いて安成委員より、当委員会の前に開催された FE 日本委員会で議論された内容が報告された。National Committee には FE 日本委員会委員が基本的には対応するが、現状の日本委員会委員に加えて学術会議の FE の推進と連携に関する委員会の委員長と、環境学委員会・地球惑星科学委員会の下にある FE・WCRP 合同分科会の委員長が National Committee に参加することが望ましいという議論があったことが紹介された。以上の方針については概ね了承された。

4) 話題提供 1「学術と社会と超学際」小林傳司(大阪大学)

資料 3 に基づき、小林委員から、変容する科学技術と社会：ブタペスト宣言から 20 年と題する話題提供があり、社会の科学技術化と科学技術の社会化、科学技術を社会にとって有意義に使うために、といった視点から解説があった。

5) 話題提供 2「人新世における持続可能性」森田敦郎(大阪大学)

資料 4 に基づき、森田氏から、気候変動・人新世と人文社会科学の現状：日本とヨーロッパ、アカデミアとグラスルーツと題する話題提供があり、人新世に関わる国際動向や、人新世をめぐる科学と公衆の関係、日本における活動の課題等について話題提供があった。

6) ブレイクアウトセッション

沖委員長により 16:30 までグループに分かれて下記のような内容について討論を行くことが説明された。

- ・ TDR に取り組む研究者を増やすにはどうすればよいか
- ・ TDR の方法論
- ・ 総合知を構築するにはどうすればよいか。
- ・ Public/Community Engagement の推進には？

7) 総合討論、学術フォーラム企画、その他

グループ討論の後で全体会合を行い、各グループのまとめを行った。

以上